

## BEST ART VINYL 2008 in JAPAN 開催企画書

『Best Art Vinyl 2008』が日本初上陸。

昨年12月、ロンドンで第3回目となる Best Art Vinyl 2008 の大賞が発表されました。欧米を中心に 2008 年に制作、発表されたアナログレコードに音楽とジャケットデザインの両方の観点から賞を与えると云うものです。

ロンドンの Art Vinyl Gallery の展示会場に加えて、専用のホームページにノミネートされた 50 作品を掲載し、世界中のアート&音楽ファンが好きな作品に投票する方式で大賞を決定したものです。

今回、SRG 社と英国 Art Vinyl が提携し、2008 年度のノミネート作品 50 点すべてを日本で紹介します。

SRG の直営ギャラリー「メールアートギャラリー」(大分4月)での展示を皮切りに「ハッピーグラフィックギャラリー」(京都4~5月)、東京(会場未定)など、各地を巡回するアートと音楽のコラボレーション・イベントです。

タイトル：BEST ART VINYL 2008 in JAPAN

企 画：SRG CO.,LTD / ART VINYL

協 力：東洋化成株式会社 (日本唯一のアナログレコードのプレスメーカー)

後 援：英国総領事館

英国大使館 (予定)



## 趣 旨：

「Art Vinyl Mix Art & Music」のかけ声のもと、新たなアートと音楽のコラボレーションを提案したいと考えています。

CD やネット配信では味わえないアナログレコードの魅力は、12 インチサイズのアートワークです。かつて「ジャケ買い」という言葉を生み出した程、それはアート作品でもあったのです。

レコードジャケットをフレームに入れて壁に飾ってみる。さらにずらっと壁一面にディスプレイすることによって、魅力的なアート空間となります。

そして、フレームから気になるレコードを取り出して、一杯のドリップコーヒーを楽しむかのようにプレイヤーの針を落とす。そして、ひとときの音楽との出会いを楽しむ。

音楽に触れる時間とアート空間の融合です。

## 背 景：

CD が売れなくなっている現状はひとえにネット配信の普及によるものです。さらにネット配信の環境が進むと CD はアナログレコードより先になくなるのではとも云われています。昨今の紙ジャケ CD も 12 インチのレコードジャケットに比べると購買意欲を駆り立てるものではありません。

昨年、アメリカでは十数年ぶりにアナログレコードの制作数が前年を上回ったと聞きます。いくつかのアーティストの新作が、アナログレコードとネット配信で販売され、CD の制作をしない傾向もあるようです。

多くの音楽家や音楽ファンは今でも 12 インチサイズのレコードジャケットを魅力的と考え、さらにアートワークにこだわったレコードが欧米においては次々と発表されています。

## PLAY & DISPLAY - THE ALBUM & 12" FLIP FRAME :

レコードを聴いて&観て楽しむ。

今回の展示会で使用するフレームは、英国アートヴァイナル社が作り出したスタイリッシュな 12 インチレコード専用フレームです。

フレームを壁に掛けたまま、ワンタッチで前面から簡単にレコードの出し入れができます。大切なレコードの保存と収納と鑑賞という3つの要素を兼ね備え、しかも思い立った時にすぐに取り出して音楽を楽しむことができます。英国では、ロンドン屈指のセレブ御用達デパート「セルフリッジ」の 2007 年度の「ベストデザイン・オブ・ロンドン」にも選出され、そのシステムは世界十数カ国のパテントも取得しています。

## **レコードジャケットのインテリアとしての可能性：**

BEST ART VINYL は、その年に発表されたアナログレコードから選出された最新のものです。しかしながら、12 インチレコードという資産の多くは、過去に発表された膨大なコレクションです。それらのレコードジャケットをフレームに入れて飾ることは、アート感覚のインテリア空間の演出にとっても魅力的なものです。

聴かなくなって押入れに積まれたレコード、中古レコード店で売られている安価な古いレコード、それらをフレームに入れて飾るというリユースすることで、その膨大な資産は生き返ります。一部の音楽マニアのための古いレコードではなく、ビジュアルのみを視点にまさに今再び「ジャケ買い」をするのもいいでしょう。

ヨーロッパ諸国で人気のアートヴァイナル社の3点セットでの販売方法は、そんなインテリア志向を意識してのことです。縦もしくは横3点を基本モジュールとして、その倍数でディスプレイしていくことによって、演出力は格段に加速します。

さらに、ワンタッチで前面から簡単にレコードの入れ替えが出来る優れた特性によって、テーマや気分によって、フレキシブルなインテリア空間の変化を楽しむことができます。それは、従来のインテリアポスターや版画を飾ることで面倒でなし得なかったことです。特に、レストラン、カフェ、ホテルのロビー、ショールームなどの商業空間に於いては、コストパフォーマンスの優れた演出としておすすめします。

## **BEST ART VINYL 2009 に向けて：**

2008 年は、シアトル出身のバンド「Fleet Foxes」のデビューアルバムが1位を獲得し、日本でも人気のコールドプレイの「Viva La Vida」が3位に選ばれました。奇しくも、両バンドとも16世紀のブリュッゲルと19世紀のドラクロワというヨーロッパの名画を引用するデザインでした。

ノミネート作品にはネットを通じて急遽入選した無名アーティストなど、各国のデザイナー、写真家、イラストレーター、画家など、有名無名を問わず様々なビジュアル作家とミュージシャンとのコラボレーション作品を見ることができます。

12月に発表される2009年のノミネートも8月から始まります。

BEST ART VINYL 2008 の日本での巡回展を通じて、未だない日本からのノミネートを目指しています。

### **アートと音楽の協調性：**

アートと音楽は絶えず密接な関係でした。多くの画家や写真家は音楽に強く影響を受け、多くの音楽家はアートに傾倒しています。

アンディウォーホル、大竹伸朗、ジョンレノンなどの例を出すまでもありません。

3回目となる BEST ART VINYL 2008 の発表後、その 50 タイトルは英国のミュージックストア、アートギャラリー、インテリアショップなどを巡回展示して BBC ニュースで取り上げられるなど話題となりました。

そして、音楽しか興味のなかった者がアートに興味を持ち、音楽に興味のなかった者が好みのジャケットからその音楽に興味を持つという現象が生まれています。

書庫に並んだ背表紙だけの美術本に興味を持つ人は限られた美術ファンのみです。レコードも同様です。レコードジャケットを飾ることによって、気になるデザインのレコードに手を伸ばし、その音楽を聴きたくなるのです。

### **アートと音楽のコラボレーションの可能性：**

かつて、ポップアートを代表するアンディウォーホルがレコードジャケットのデザインを手がけて無名ミュージシャンをデビューさせたことがあります。

ただ、現在ではアナログレコードが音楽にとって最も商業ベースに適したメディアとはいえません。

おそらく、限定、貴重性、特異性、復刻などのキーワードが最も適していると思われます。そして、それらのキーワードは本来アートが持つ得意な性質なのです。

例えば：12 インチサイズをフォーマットとしたアートワークを画家、写真家、デザイナーなどの作品発表のひとつとして考え、それに音楽家が音楽として参加する。

手法も、印刷、版画、デジタルプリント、ドローイング、コラージュなど、市場価格も様々な想定して、その発表の場や流通も新しいものを求めて行く。

ジャケットをレコードを売るための広告としてでなく、両者の作品としてジャケットのアートワークと音楽の作家名を同等にクレジットすることで、新しいアートと音楽のコラボレーションを生み出したいと考えています。

そして、毎年ロンドンで行われる BEST ART VINYL の 2009 年、2010 年に向けて、日本からの出品を実現したいと考えています。